

「どんぐりのゆりかご」の舞台となる森林について

おはなしの舞台は、夏緑樹林です。日本では鹿児島県から北海道と広く分布し、ブナ属、ナラ属、シデ属、カエデ属などの種で構成されています。

「どんぐりのゆりかご」では、兵庫県の六甲山のブナ林を舞台と設定しました。



「どんぐりのゆりかご」のポイント



「分解者」

森林土壌の浄化は、土壌生物や微生物などの分解者がなっています。土壌動物の体内を通った有機物は団粒状になって排泄され、ふかふかの土を作ります。

また、ミミズなどは固い土にトンネルを掘って土壌をふかふかに耕すと、水や植物の根を通りやすくするだけでなく、空気の通り道となり微生物を活発化し、有機物の分解が早く進行するというメリットもあります。

KOBELCO森の童話大賞HPの「おはなしを書く前に」で、森についての詳しい情報を発信しています。ぜひご覧ください。HP www.kobelco-mori-ohanashi.jp



絵本活用のヒント

第10回中高生の部金賞受賞作品

「どんぐりのゆりかご」



KOBELCO 森の童話大賞について

森はたくさんのいきものの命を育み、空気をきれいにし、水をたくわえ、私たちの暮らしに安全と豊かな恵みを与えてくれます。でも、一度森が元気を失ってしまうと、元通りにするには長い年月と、大変な努力が必要になります。

このような「森」を理解し、大切にすることを、次の世代を担う子どもたちに育んでもらうため、KOBELCOグループは「森」をテーマにしたおはなしを募集し、絵本を作っています。

この絵本を読んで、一人でも多くの子どもたちが、森をはじめとする自然について考え、かけがえのないものであると気づき、そして、いつか、森を、自然を、元気にすることを何か一つでも実行していただければと思っています。

森の食堂のお客さんをよく見てみよう！

森の食堂ではダンゴムシの店長さんが葉っぱを提供して、お客さんはみんなその葉っぱを食べていますね。その中で1匹だけ葉っぱじゃないものを食べている虫がいます。誰かわかるかな??

コナラ

15-20mほどの落葉広葉樹の高木。
細長い果実が1年で実る。



カケス

「どんぐりのゆりかご」の世界



キノコムシ

ダンゴムシ

ヤスデ

ナメクジ

アカミミズ

カタツムリ

ヤマナラシ

10-25mの高木。
枝葉が長く、そよ風でも葉が揺れ、ふれあって音が出るので「山鳴らし」という名前がついている。



ホンドリス

シーボルトミミズ

日本産の大型ミミズで西日本の山林に生息する。体が大きく青紫色の光沢をもつ。シーボルトが本種の標本をオランダに持ち帰った記述があり、採集者から名付けられた。

答え：
キノコムシ
→お皿の葉っぱではなく、キノコのテーブルにかじりついていますね。
キノコムシはその名の通り、葉っぱではなくキノコを食べます。